

2022年11月18日 談山神社～石舞台で観察した植物

作・岡田弘

ドウダンツツジ（灯台躑躅）ツツジ科ドウダンツツジ属

名前の由来＝細い枝が3方に分かれて伸びている姿が灯台の脚に似ているところから「灯台（とうだい）」が訛って「ドウダン」となったと言われる。アジア原産の落葉低木、代表的な庭木の一つで、春の花、秋の紅葉と楽しめる。花はベルの様な形をした白やピンクのかわいらしい花びらが特徴です。秋の紅葉は他の樹木に先駆けて紅葉が始まりその鮮やかな赤色は素晴らしい、談山神社で見たドウダンツツジは紅葉であり花色は判らない。

花言葉＝上品、節制、返礼、私の思いを受けて、***花期**＝4～5月、山野に自生しているドウダンツツジにはサラサドウダン、ベニサラサドウダン、ヒロハドウダンツツジ、等がある。



ヒカゲノカズラ（日陰の葛）ヒカゲノカズラ科ヒカゲノカズラ属

名前の由来＝日影の葛で日なたに出ることを意識した名であると言う説があるが良く判らない。山野に自生する常緑多年草、カズラと名が付いた蔓状の地を這い2又に分枝しながら伸びていくが、他の植物に這いあがることはない、茎に一面針状の細い葉をだしている様子はブラシににている、祖先は約4.2億年前に現れた世界最古の生きた化石であることを日本の学者が発見した、一説には、天岩戸の前でアメノウズメが踊った際に、この植物を素肌に纏っていたとも又、古事記には「天香山の日影葛を手襷に懸け」とある、万葉集などにもその名を見かける。分布は北半球の温帯域の高山にまで分布している、日本では沖縄を除いて広く分布している



ナワシログミ（苗代茱萸）グミ科グミ属 *花期=10～12月

名前の由来＝稲の苗を育てる苗代作りの時期に果実が熟すので、熟した実は甘ずっぱい。常緑低木で高さ2～3m、伊豆半島以西～九州に分布。樹皮は灰褐色、葉は互生で光沢があり全縁で縁が波打っている、裏面は白色＝黄白色で密に鱗状毛がある。花は葉腋に淡黄色で数個つく、萼筒は長さ6～7mm4個の陵があり、基部がくびれて子房につながる。仲間にはアキグミ、ナツグミ、ビツリグミ、等、斑入り改良種もある。**花言葉**＝心の純潔、冬の祈禱



ヌルデ（白膠木）ウルシ科ヌルデ属、*花期7～8月

名前の由来＝幹に傷を付けると白い汁が出てくる、此れを採集して塗料に使われていたので。北海道～沖縄まで林縁に生えて分布している。高さは5～10mの落葉高木、葉は互生で奇数羽状複葉で小葉は9～13枚、葉軸に翼があるのが特徴、雌雄異株で荒地などにいち早く生えてくるパイオニア植物です。葉っぱの軸の所にヌルデシロアブラムシが寄生すると虫こぶが出来る、タンニン豊富に含んでいる、幼虫が脱出する前に採集して乾燥させ五倍子（ごばいし）を作る、乾燥した五倍子を粉にしのをお歯黒の材料としていた、又、お歯黒は虫歯の予防にもなった。モミジに先駆け紅葉して美しい、ウルシほど赤くならない、かぶれるがウルシほど強くない。

花言葉＝信仰、知的な、華やか、壮麗、・11/27の誕生日花



トベラ（扉）トベラ科トベラ属 *花期4～6月

名前の由来＝枝葉を切ると悪臭を発生するので、節分にイワシの頭などとともに戸口に掲げられる風習があったことから、「扉の木（トビラのき）」と呼ばれ、これが転訛してトベラとなった。本州の太平洋側の海岸線から沖縄に分布している常緑低木、葉は互生、先端は輪生状に集まり、葉の先が丸く基部が葉柄に流れる、全縁で皮質、表面は深緑色で光沢がある、雌雄異株、花は良い香りがする、直径2cmほどの白い花を多数つける、11～12月頃に裂果は熟して3裂して粘った赤い実を8～10個出す。**花言葉**＝偏愛、慈しみ、・2/14の誕生日花



以前に紹介している、多く見られた植物。

フユイチゴ・ベニバナボロギク、アキノノゲシ、オオジシバリ・カナムグラ・ハコベ・ヤブコウジ
エノコログサ・セイタカアワダチソウ・クサイチゴ。チジミザサ、等々多く有りました、